

《担当者名》○本家寿洋 湯川正雄

【概要】

発達障害領域における作業療法士の役割と目的、評価する上で必要な視点、考え方を理解し、評価の過程、評価領域、実際の評価方法について学修する。運動面、上肢機能面、認知面、日常生活動作などの発達過程の理解を深め、正常発達の知識を作業療法に応用できるよう学習し、発達障害におけるプログラムの立案のための基礎知識を身につける。また、発達障害領域における代表的疾患と障害像の知識を学び、その評価方法について学修する。

【学修目標】

【一般目標】

正常発達の理解とともに発達領域における評価について理解を深める。

【行動目標】

1. 発達障害領域における作業療法の目的を説明できる。
2. 発達障害領域における評価の目的について説明できる。
3. 発達障害領域における評価項目を列挙することができる。
4. 小児の代表的疾患における評価について説明できる。
5. 発達領域における評価計画を立てることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	発達障害と作業療法	発達障害領域における作業療法と役割について学ぶ。	湯川正雄 本家寿洋
2	発達評価	情報収集、面接、検査・測定など	湯川正雄
3	発達評価	反射と反応（原始反射、立ち直り反応、平衡反応）の発達	湯川正雄
4	発達評価	正常発達（姿勢・移動を中心に）	湯川正雄
5	発達評価	全般的発達評価について（主にスクリーニング）	湯川正雄
6	発達評価	眼と手の協調性の発達と評価の視点	湯川正雄
7	発達評価	感覚面の評価	湯川正雄
8	発達評価	ADLの発達と評価	湯川正雄
9	発達評価	コミュニケーション、心理面の発達と評価	湯川正雄
10	発達評価	遊びの発達と評価	湯川正雄
11	肢体不自由児と作業療法	肢体不自由児に対する作業療法と評価の視点	湯川正雄
12	脳性麻痺	脳性麻痺の臨床像と評価の視点（姿勢運動を中心に）	湯川正雄
13	精神発達遅滞	精神発達障害児に対する評価の視点	湯川正雄
14	発達障害と作業療法	発達障害児に対する作業療法の概略と評価の視点	湯川正雄
15	まとめ	まとめ講義を行う	湯川正雄 本家寿洋

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%

定期試験、追再試験実施後、問い合わせがあった場合には模範回答を提示する。

【参考書】

M.R.barnes 他 著 「運動発達と反射」 医歯薬出版 1983年
 上杉雅之 監修 「イラストでわかる発達障害の作業療法」 医歯薬出版 2016年
 長崎重信 監修 「発達障害作業療法学 改訂第2版」 メジカルビュー社 2015年
 木原秀樹 著 「240の動画でわかる赤ちゃんの発達地図」 メディカ出版 2011年
 Jung Sun Hong 著 「正常発達【第2版】?脳性まひの治療アイデア?」 三輪書店 2014年

岩崎清隆 著 「発達障害の作業療法【第2版】 - 基礎編 - 」 三輪書店 2015年
岩崎清隆 他 著 「発達障害の作業療法【第2版】 - 実践編 - 」 三輪書店 2015年

【備考】

適宜プリントを配布

【学修の準備】

予習は、教科書を読み授業に臨むこと（80分）。

配布されたプリントと教科書の内容を統合し、理解を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

湯川正雄（作業療法士） 本家寿洋（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

発達障害領域における医療機関、福祉機関での臨床経験を活かした教育を行う。